

やまびこ

BULLETIN OF YAMAGATA UNIVERSITY LIBRARY

No.55 2005.10

[蔵王のお釜(火口湖)]

もくじ

無題 附属図書館長 芦立一郎	1
「紅花の歴史文化館」へようこそ	2
ひろば (図書館からのおしらせ)	6
本学教員著作寄贈図書	7
附属図書館運営委員会名簿	7
附属図書館運営委員会審議事項	7
中央図書館後期ガイダンス案内	8

無題

附属図書館長 芦立一郎

我妄りにこれを言う、汝妄りにこれを聞け。図書には悩まされてきた。今もそうである。仕事上は書物をあれこれいじくりまわさなければならない。うっとしい漢字の詩文を読み、大層な議論を聞き、あたりをつけて言葉や意味構造の分布状況を調査する。日々の漢字の捕り物であるが、上手く捕まえたことはない。最近は電子的手段が導入されて大分便利にはなってきた。それでもいまだに、ひたすら紙をめくる難行苦行は続く。不在の確定などは特にやっかいである。おおかたは文献資料の大海をまえにして蒼ざめ杲然と立ち尽くすことになる。徒勞に果て不埒な妄想もおきる。“アレキサンドリアの図書館も咸陽の都も燃えた、華氏何百度だっけ、焚書だ坑儒だ、臭老九だ”と。冗談にしても罰当たりなことである。

自らは書物の紙魚にも劣る縫中の虱であろうに、知的な自殺行為と恥じ入るほかはない。真理、自由への道程として図書や図書館そして学を語るなど、紅旗征戎・・・。

それにしても書物を読むのは悩ましいものである。中国の古い詩の話で恐縮なのだが読書の一つ

の典型のように思われるものがある。それは概略次のようなもの。秋の冷たい雨が降る夜、世に捨てられ、自らも世をすてた若者が満腔に怒り秘め、自分の文章が紙魚にむなしく食い散らされることに絶望しつつ読書している時、一人の美女が彼のもとを訪れるのを詠う詩がある。「誰か青簡一編の書を看て、花蟲(紙魚をいう)をして粉として空しく蠹せしめざる。思い牽(ひ)かれ今夜腸應(まさ)に直なるべし、雨冷く香魂 書客を弔う。」委細は省略するが注によれば、美人のうるわしい魂は書物(『詩経』)の中から出現したものという。両人はすぐにねんごろな関係になるのだが、実は彼女は死霊であり、やがて再生の途中の下半身腐骨の実相を示すことになりその関係は絶えるというもの。錯綜しているが、このような書物との関係はいつてみれば世界とその内にある自分の関係を無理やりに裏返しにして、世界を自分の中に閉じ込めてしまったようなものであろうか。決して健全なものとはいえないが、究極の読書ではある。

ただいま電子化をめぐるは議論が喧しい。曰く、情報と知識、曰く、実態・本物と仮想的存在、

曰く、全体と断片等々。そこにはにわかには解くことのできない困難な問題が多く存在する。図書や図書館は情報化の波におし流され、電子化の方向に向うことはさげられない状況のようである。ただ、不易と流行はいつの時代にもあり、伝達メディアが変更されるたびに現在の電子化の問題と類似する議論がくりかえされているようだ。宋代、版本により冊子の形をした書物が流布してくるわけであるがそのような状況下、司馬光などは本を初めから終りまで読まずに任意の部分をつまみ食いする不逞の輩が多いと、流行の読み方を批判する議論を展開している。電子化された書物であれば、その利用の様相はさらに過激になるだろう。拾い読みどころか、書き手の当初の意図とは無関係にあらぬ加工が加えられることにもなるだろうが、そこにまた新しい探求の領域・方法が広がることがあるいはあるのかもしれない。情報化の進行は憂えることだけではないのかも知れぬ。電子的空間にも紙魚に似た

ウイルスなるものが生息し書録を蚕食するという。大方はこれまでの冊子世界の読書と変わらぬのであろう。もっともウイルスは「案頭に蠹魚を見る、猶お凡なる儔侶に勝れり」と語りかけられる代物ではなさそうだが。

今図書館に限らず大学に求められているのは、すぐ役立つ情報を発信することだという。明日役立つものと今日役立つものとは異なるのかもしれない、酷といえど酷な要求であるが、超然としているわけにもいかない。可能なかぎり応えなければならぬまい。ただその折に、有用無用の仕分けにより自由な思考とそれにもとづく学問の楽しみ(苦悩も含めて)が軽々しく切り捨てられることのないようお願いしたい。また所蔵の次世代への引渡しなども重要な役割であろうが、それも効率性の名目により安易に遺棄してほしくはない。たとえいかがわしい骨董であろうとも、その資料的可能性は十全に検討されねばならぬまい。(あしだて・いちろう)

「紅花の歴史文化館」へ ようこそ

<http://libzao.kj.yamagata-u.ac.jp/benibana/>

紅花は、初夏にアザミに似た黄色い花を咲かせる菊科の一年草で、山形県の県花でもあります。

山形大学附属図書館と附属博物館は、平成16年度の学内プロジェクトの一環として、この紅花に関する歴史的・文化的な学術情報を学内外から収集・電子化し、提供する社会連携事業を企画いたしました。

プロジェクトの名称は、「紅花の歴史文化と地域学術資料のデータベース化及び情報発信」、通称「紅花プロジェクト」と呼んでいます。

1. 紅花プロジェクトの成果

平成16年度に実施した成果を簡単にご紹介します。

●紅花関係資料の調査と電子化

山形県立博物館をはじめ県内機関等10カ所を調査し、約300件の紅花関係資料を電子化しました。

●紅花関係古文書の目録化

附属図書館と附属博物館所蔵の紅花関係古文書約6,400件について、整理・目録・データベース化を行いました。

●紅花関係文献データの提供

各機関に分散所蔵されている紅花関係文献データ約1,600件をデータベース化しました。

●「紅花の歴史文化館」の開設

紅花関係情報の電子資料館「紅花の歴史文化館」を構築し、平成17年4月から公開しました。

2. 「紅花の歴史文化館」のご案内

はじめにトップページをご覧ください。

<http://libzao.kj.yamagata-u.ac.jp/benibana/>

「紅花の歴史文化館」は、山形大学附属図書館及び山形大学附属博物館で所蔵する紅花関係資料を中心とし、山形県内外の紅花関係情報の調査とデータベース化を図り、わかりやすい情報とともに情報発信する電子資料館です。

※「紅花の歴史文化館」は平成16年度山形大学1学部 部門プロジェクトとして作成されたものです。
2005年10月12日更新

紅花文書画像データベース	図書・雑誌全文	紅花資料目録データベース	標本・美術品・写真	紅花関係映像資料	その他
1.伊勢屋源助家文書	1.山形のベニバナ 2.山形県における紅花栽培(英文) 砂ぼくの急ぎ旅 3.創作紅花料理レシピ集	1.紅花文書目録検索(伊勢屋源助家文書、二森部文書) 2.紅花文獻目録検索	1.紅花屏風(高橋徳善画) 2.紅花関係標本等資料 3.紅花関係写真等資料	1.「最上川舟下り」「紅花鑑み」「紅餅作り」「白い紅花」	1.紅花関連リンク集 2.紅花の豆知識 3.協力機関等一覧 4.サイトマップ 5.WHAT'S NEW

〒990-8560 山形県小国町一丁目4-12 TEL.023(620)4930 E-mail:libzao@lib.kj.yamagata-u.ac.jp
Copyright 2005 Yamagata University Library All Rights Reserved

では、各コンテンツをご紹介します。

① 紅花文書画像データベース

● 伊勢屋源助家文書の画像

京都の紅花問屋「伊勢源」の商取引に関係する文書群のうち、近世における山形と京都との紅花商取引に関係する古文書108点の画像(一部カラー)を掲載しています。地域の研究者の方々などにご活用いただけたらと思います。【図1】

② 図書・雑誌全文

紅花のルーツや植生などを知るうえで最適な資料を読むことができます。

- 渡部 俊三著 「山形のベニバナ 雪国に咲く熱砂の花」1991
- 渡部 俊三著 「山形における紅花栽培」『山形農林学会報』34,1977
- 渡部 俊三著 「砂ぼくの急ぎ旅」『山形農林学会報』34,1977

また、山形県が開催した紅花料理コンテストの作品をご覧になれます。

- 山形県村山総合支庁編「創作紅花料理レシピ集」2003 【図2】



【図1】「預り申金子之事」差出人：佐藤理右衛門、山口吉助(安政6末年)

三色花咲き米

材料(4人分)

米	200g	水	400cc
乾燥わかめ	10g	乾燥わかめ	10g
乾燥わかめ	10g	乾燥わかめ	10g
乾燥わかめ	10g	乾燥わかめ	10g

① 米を洗って炊き込み鍋で炊く。② 炊き上がった米を器に盛り、乾燥わかめをのせて完成。

紅花漬け

材料(4人分)

鶏肉(皮なし)	200g	醤油	大さじ2
酒	大さじ1	砂糖	大さじ1
塩	小さじ1	水	大さじ1

① 鶏肉を一口大に切り、塩をまぶす。② 鶏肉を鍋に入れ、酒、醤油、砂糖、塩、水を加えて煮る。③ 煮終わったら、鶏肉を器に盛り、醤油をかける。

べにばなの錦巻きサラダ

材料(4人分)

鶏肉(皮なし)	100g	乾燥わかめ(200cc)	100g
わかめ	100g	乾燥わかめ	100g
乾燥わかめ	100g	乾燥わかめ	100g
乾燥わかめ	100g	乾燥わかめ	100g

① 鶏肉を一口大に切り、塩をまぶす。② 鶏肉を鍋に入れ、酒、醤油、砂糖、塩、水を加えて煮る。③ 煮終わったら、鶏肉を器に盛り、醤油をかける。

Benibana Original Cooking Recipe

【図2】

③ 紅花資料目録データベース

● 紅花文書目録データベース

伊勢屋源助家文書1,711件、二藤部文書(山形大学附属図書館所蔵分の一部) 5,188件、二藤部文書(県立博物館所蔵分) 88件をキーワード、年号等で検索できます。

● 紅花文献目録データベース

県内公共図書館等に所蔵されている図書、雑誌論文のデータ1,610件を簡単に検索できます。

④ 標本・美術品・写真

● 紅花屏風2点

青山永耕筆「紅花屏風」山寺芭蕉記念館所蔵【図3】と、横山華山筆「紅花屏風」山形美術館所蔵(いずれも山形県指定有形文化財)の高精細カラー画像を自由に拡大して細部までご覧になれます。美術品としてだけでなく、江戸末期の紅花の生産・流過程、風俗を知るうえで貴重な史料といえます。

● 紅花関係標本資料

附属博物館が所蔵する「最上名所名産名

物番附」「稲村家下駄」などの全国的にも珍しい資料・標本画像56件をご覧ください。

● 紅花関係写真資料

山形大学名誉教授・渡部俊三先生がエジプト等を調査旅行した際の写真や、古代の女性の化粧再現をはじめ497件の画像をご覧いただけます。

⑤ 映像資料

山形県デジタルコンテンツ利用促進協議会が制作した4種類のデジタルビデオをお楽しみください。(現在学内限定です。)

● 最上川舟下り(戸沢村)

● 紅花摘み(高瀬)

● 紅餅作り(寒河江)

● 白い紅花(天童)

⑥ 紅花の豆知識

紅花の基礎知識を16項目にわたってわかりやすく紹介しました。



【図3】

3. 「紅花の歴史文化館」のこれから

「紅花の歴史文化館」には、平成17年4月から8月までに3,723件のアクセスがあり、このうちの71%が山形大学外からのご利用でした。

附属図書館では、紅花に彩られた歴史や文化を探究するとともに、現代に息づいている紅花の魅力・効用を知っていただき、広く生涯学習・総合学習に活用していただくために、平成17年度もさらに

コンテンツの拡充を中心に整備に努めて参ります。来年の紅花の種蒔きのころには一段とバージョンアップした「紅花の歴史文化館」をお見せできると思います。

「紅花の歴史文化館」に関するみなさまの率直なご意見をお待ちしています。



より新しいニュースは、ホームページを!
<http://www.lib.yamagata-u.ac.jp/>

中央図書館 ☎023 (628) 4912

● 書庫への学部学生の入庫を試行します

学部学生の要望を受けて、以下のとおり中央図書館書庫への入庫を試行しますのでご活用ください。

対象

卒業研究等の理由で書庫内資料の検索・閲覧が必要な3年生以上の学部学生。

条件

指導教員の確認が得られていること。

書庫内資料・設備を適切に扱うための説明会を受講していること。

手続き

カウンターの「特別入庫申込書」に必要事項を記入し、指導教員に署名・押印をいただいて、カウンターに提出する。

書庫利用説明会を受け、「入庫許可証」の発行を受ける。

カウンターに「学生証」及び「入庫許可証」を提示し、「入庫許可証」を携帯して入庫する。

その他

「入庫許可証」の有効期限は学部在学期間内です。平成18年3月の時点で評価を行い、その結果に基づき本実施に向けての検討を行います。

詳しくは、カウンターまでお問い合わせください。

医学部分館 ☎023 (628) 5054

● 医学部オープンキャンパスが開催されました

8月5日にオープンキャンパスが開かれ、医学部分館の概要説明後、2コース10班に分かれて見学が行われ、約200名の高校生が図書館を訪れました。

● 医学部研究業績集2004版を発行し学内に配布しました

研究業績集を7月に130部編集・発行し、医学部各講座等を始め、学長、部局長、図書館等に配布しました。また、CD-ROMも発行しました。

● Windows パソコンを設置しました

コンピュータコーナーのWindowsパソコン1台を更新しました。オンラインジャーナル等の利用ができます。

工学部分館 ☎0238 (26) 3019

● 推薦図書コーナーを設けました

各学科推薦により購入している学生用図書(学内措置分)は先着順に新刊推薦図書として配架されていましたが、利用の便を図るため推薦図書コーナーを設け、推薦学科ごとに配架しています。

農学部分館 ☎0235 (28) 2810

● 開館時間を拡大します

11月から土 日 祝日の開館時間を変更・拡大し、10時から17時とします。

本学教員著作寄贈図書

— 2004.10～2005.9 —

このたび本学の先生方から、以下の著書を寄贈していただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

【中央図書館】

河野 銀子 (地域教育文化学部)

「理科離れしているのは誰か：全国中学生調査のジェンダー分析」日本評論社, 2004 (375.423//リカバ)

関口 武彦 (名誉教授)

「クリュニー修道制の研究」南窓社, 2005 (198.25//クリュ)

高橋 良雄 (理学部)

「複素解析(物理数学コース)」裳華房, 2005 (413.52//フクソ)

山崎 彰 (人文学部)

「ドイツ近世的権力と土地貴族」未来社, 2005 (234.05//ドイツ)

首藤 若菜 (人文学部)

「統合される男女の職場(双書ジェンダー分析: 3)」勁草書房, 2003 (366.38//トウゴ)

國方 敬司 (人文学部)

「東洋文明史2(東西文明史: 第6巻、第7巻)」三浦新七博士記念会, 2002 (209//トウザ//7)

赤塚 孝雄 (名誉教授)

「Proceedings of Joint Symposium on Bio-Sensing and Bio-Imaging 2001」[Institute for Life Support Technology], [2001] (460.6//PRO)

浅井 武 (地域教育文化学部)

「子どものボディセンスを伸ばす本：親と指導者のための新しい「カラダとココロのバランス論」：自己表現がうまくなる!運動が好きになる!：動いて、遊んで、カラダが変わればココロも変わる! (からだ読本)」山海堂, 2005 (375.49//コドモ)

【工学部分館】

横山 孝男 (工学部)

「ノート、社会における技術史と倫理」横山孝男, 2005 (502.1//ノトシ)

附属図書館運営委員会名簿

平成17年10月1日現在 (◎は委員長)

所 属	氏 名	任 期
◎附属図書館長	芦 立 一 郎	17.9.1 ~ 19.8.31
医学部分館長	加 藤 宏 司	17.9.1 ~ 19.3.31
工学部分館長	横 山 晶 一	17.9.1 ~ 19.8.31
農学部分館長	貫 名 学	17.9.1 ~ 19.3.31
人文学部教授	大 槻 芳 孝	17.4.1 ~ 19.3.31
人文学部教授	新 宮 学	17.9.1 ~ 19.8.31
地域教育文化学部教授	小 川 雅 子	16.4.1 ~ 18.3.31
地域教育文化学部助教授	今 村 哲 史	16.4.1 ~ 18.3.31
理学部教授	坂 本 政 臣	17.4.1 ~ 19.3.31
理学部教授	小 関 道 夫	16.4.1 ~ 18.3.31
医学部教授	小 谷 直 樹	16.4.1 ~ 18.3.31
工学部助教授	仁 科 辰 夫	17.4.1 ~ 19.3.31
農学部助教授	安 中 武 幸	16.4.1 ~ 18.3.31
学術情報基盤センター教授	澤 田 秀 樹	16.4.1 ~ 18.3.31
留学生センター助教授	尤 銘 煌	16.4.1 ~ 18.3.31
学 務 部 長	日 野 静 雄	16.4.1 ~
附属図書館事務部長	清 水 二 郎	16.4.1 ~

平成17年度附属図書館運営委員会審議事項

第1回 (平成17年4月26日開催)

- 1 2006年度以降の電子ジャーナルの整備について

第2回 (平成17年6月10日開催)

- 1 平成17年度附属図書館予算配分要項(案)並びに中央図書館、3分館への予算配分(案)について
- 2 平成17年度事業計画について
- 3 2006年度以降の電子ジャーナルの整備について

中央図書館ガイダンス(平成17年度・後期)のお知らせ

平成17年度・第3回 学生・大学院生のための図書館ガイダンス

日本語文献を探してみよう! : 文献検索法説明会

- 日時・場所：平成17年11月18日(金) 16時20分～17時10分(約50分間) 図書館会議室
- 説明内容：卒論などに使う参考文献として日本語文献を探す際に役に立つ学術コンテンツポータル「GeNii(ジーニイ)」の利用法の説明会です。

参加申込書またはメールで、あらかじめ担当係へ参加申込してください。

中央図書館ガイダンス実施報告(平成17年4～10月)

開催時期・場所	内 容
4～5月 図書館会議室	新入生のための図書館案内 知の宝庫・大学図書館の使い方を簡単に説明の後、館内めぐりの小旅行を行いました。また、普段入室禁止の場所にもご案内し参加者から好評を得ました。(開催回数10回、参加者185名)
4月 図書館会議室	新任教員のための図書館案内 本学に新たに赴任された先生を対象に図書館の各種サービスの使い方などをご説明しました。(開催回数5回、参加者18名)
5月 図書館会議室	第1回 学生・大学院生のための図書館ガイダンス (読みたい本を探してみよう! : 蔵書検索法説明会) インターネットを利用した図書や雑誌の探し方(所蔵検索法)をご説明しました。(開催回数1回、参加者2名)
7月 図書館会議室	第2回 学生・大学院生のための図書館ガイダンス (日本語文献を探してみよう! : 文献検索法説明会) 卒論などに使う参考文献として日本語文献を探す際に役に立つ学術コンテンツポータル「GeNii(ジーニイ)」や朝日新聞DB「聞蔵」の利用法をご説明しました。(開催回数1回、参加者5名)
5～7月 図書館会議室	教員の依頼による図書館ガイダンス 教養セミナー、人文学部人間文化学科、工学部電気電子工学科、工学部物質化学工学科の担当の先生からご依頼をいただき、依頼内容に基づいた図書館ガイダンスを授業時間の1コマを使って実施しました。(開催回数9回、参加者259名)
8月 図書館閲覧室	山形大学オープンキャンパス・ライブラリツアー オープンキャンパスに来場いただいた入学希望者や一般市民の皆さまを対象に図書館の概要やデジタルコンテンツについてご説明しながら、館内を散策するライブラリツアーを実施し、好評を得ました。(開催回数1回、参加者473名)
10月 図書館会議室	1年生のための図書館案内 図書館をもっと活用しよう! 新入生のための図書館案内に参加できなかった方を対象に後期の初めに同じ内容のガイダンスを実施しました。(開催回数1回、参加者1名)
10月 理学部S401/医学部視聴覚教室	研究支援セミナー「引用データから見える山形大学の研究のすがた」 法人化後の国立大学においては、定量的な評価基準を採用することが求められています。本セミナーでは論文投稿誌の評価指標である「インパクトファクター」からどのようなことが読み取れるのか、誤用しないためにはどうしたらよいかを専任講師がご説明し、好評を得ました。(開催回数2回、参加者30名)
10月 工学部学術マルチメディア室/農学部情報処理教室	引用文献データベースWeb of Science利用説明会 Web of Scienceの最新情報と利用方法についてデモンストレーションを交えてご説明し、インパクトファクターを検索できるデータベースJCR Webのトライアル利用も体験していただきました。(開催回数2回、参加者76名)

図書館では必要に応じ、随時、各種データベースや電子ジャーナルの利用説明会を開催します。

また、各先生方からのご要望により、授業の一環としての図書館ガイダンスを、ご希望に応じた内容で実施しています。授業時における図書館ガイダンスを希望される場合は、お早めに担当係へご相談ください。

担当係：附属図書館情報サービス課学術情報係(Tel. 023-628-4914)

E-mail: jsagaku@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

原稿を募集中です

図書館利用上の建設的なご意見や、要望などをお寄せください。

023(628)4903 E-mail jkahosa@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

..... 山形大学附属図書館 2005年10月発行(年2回刊)

〒990-8560 山形市小白川町1丁目4-12 <http://www.lib.yamagata-u.ac.jp/>